

---

目指せ！「東京で一番楽しいキンダー・スクール」



**HILLOCK** Bilingual Kinder School

代表 塚谷武志



---

＜NPO法人ソダチバ・プロジェクト＞  
理念：都会の子どもの「ソダチバ」を作る

＜HILLOCK（スクール部門）＞  
ワイルド&アカデミックな環境で  
子どもが自ら「育ち」を獲得するスクール



## ソダチバ



### (1) 人類の進化に沿った育ち(学びの前に育ち)

- **自然**: こんな時代からこそ、幼少期には、自然にふれあい、生き物としての生命力・たくましさや人間性を確保することが何より大切ではないか(→非認知能力につながる)
- **人**: 家族以外でも「ヒトは温かい」「世の中捨てたもんじゃない」と思える人間関係を信じられることで、好奇心やチャレンジ精神は磨かれるのではないだろうか(→自己肯定感に)
- 子ども時代を遊びつくし、心から満足するからこそ、将来、世の中に貢献したい志が湧くのではないだろうか(→恩送り)

人や自然に「受け入れられる」「楽しむ」と同時に「導かれる」を通して  
「自己肯定感」「ワクワクする気持ち」が育まれる環境



## ソダチバ



### (2) 時代に合った先進的な学び

- 多様化する時代において、学びの変化も加速
  - 個人が多様化、社会・スキルや知識も多様化する中、どう対応するか?
  - 世界トップ層標準の教育水準からは大きく乖離
  - グローバル&AI時代に、国の言う通りにしていたら痛い目に合うことも?
- 遊び心・ユーモアを大切にしながら「高い学ぶ力」を身につける

- ① 自立と教養(どんな時代でも基本)
- ② 基礎スキル(読み書きそろばん)はこれからも大切
- ③ 非認知型の学び(例: 探究型、グループ活動、自然活動)
- ④ 先端スキルを広く薄く知っておく(例: 英語、STEM)
- ⑤ 社会とのつながり(例: アントレプレナーシップ、ジョブ体験)





## (3)子ども視点に立ち戻る(大人が盛りすぎない)

- 子どもの「自ら成長する力」を信じる
  - 成長力が存分に育つような環境を整えるのが大人の役目・責任
- 学びには個人の内省的な働きが必要(ぼーっとする時間)
  - 寝ている間に定着→睡眠時間が大切／食べもの・生活リズムが重要
  - 何も考えていない時に脳は活性化／探索している時に集中力が出る
- 中庸が大切(大人が肩の力を抜く)
  - 大人の論理(評価/効率)を持ち込まない(金の卵はゆっくり育つ)
  - 詰め込み過ぎない(水と肥料をあげ過ぎない)
  - かたよらない(広い経験から本人の意思・決断で絞り込んでいく)
- 多様な個性を認めることが第一歩(教育には限界がある)
  - 遺伝の影響は想定より大きい。一人ひとりとは違う前提で。

適切な距離感: 環境整備/受止め/サポートが大人の役割



## NPO ソダチバ・プロジェクト主要メンバー



堺谷 武志  
(さかい たに たけし)  
キッズアイランド代表

都銀で国際ビジネスに従事後、プリスクール・キッズアイランドを設立。ソダチバ・プロジェクトを手掛ける。京都大学、USC大学院(MBA)、保育士



野村 竜一  
(のむらりゆういち)  
ISSJ準備

コンサルティング、マスコミ等を経て、ロジカル・シンキング塾ロジムを創立。現在、International School of Science創設準備中。東京大学教養学部



外部サポート  
炭谷 俊樹  
(すみたとしき)  
ラーンネット代表

マッキンゼー勤務後、20年前にラーンネット・グローバルスクールを立ち上げ。神戸情報大学院大学学長。



中村 一彰  
(なかむらかずあき)  
ヴィリング代表

ベンチャーでの企画業務経験後、教育起業。STEMON、BOKENなど先進的プログラムをリリース。2017年にはCEO兼教師として学校現場でも活躍。



村田 学  
(むらたまなぶ)  
教育ジャーナリスト

アメリカ生、日本育ち。インターナショナルスクール・タイムズを創刊・編集長として日米の教育現場を取材。Global Educational Partners取締役。



長井 悠  
(ながいゆう)  
ハバタク代表

IT系コンサルタントを経て、ハバタク、タクトピア創業。教育や社会をイノベーションするプロジェクトを次々立ち上げ。東京大学院卒(パッパ研究)

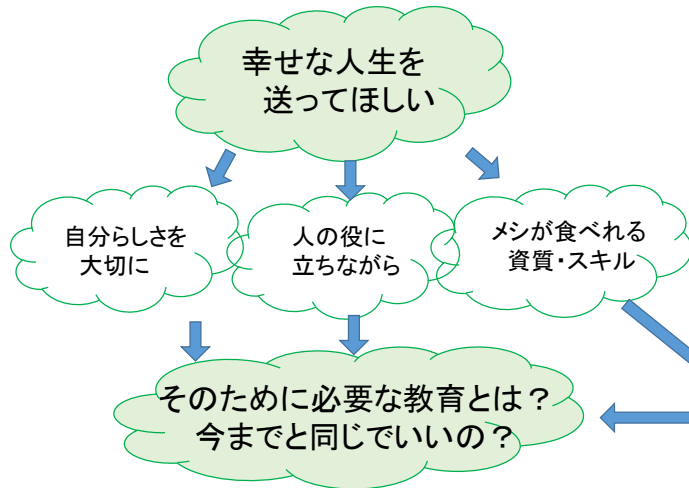
教育系起業家の仲間と  
NPO立ち上げ

- 2018年キンダー設立
- 2022年プライマリー設立



# 保護者の想いと環境

## 保護者の想い(突き詰めると...)



**外部環境: 不確実な時代**

- テクノロジー・人工知能(AI)
- グローバル化
- 少子高齢化

例 企業の寿命が短くなる  
知識・スキルがすぐ陳腐化  
インドやアフリカが台頭

必要な資質やスキル例(これすら変わる)

- ・転職や起業ができる勇気・スキル
- ・変化に臆しない/常に学び続ける意欲
- ・多様性(世界)とつきあうしなやかさ

# 未来の学び(1)アジアの学校



- ・ 経済産業省の研究会(「未来の教室」とEdTech)より
  - ・ 中国: イノベーション人材育成、STEM教育に投資(4兆円)
  - ・ シンガポール: トップダウンでAI人材育成、上位10%は高校受験廃止 (イスラエル: 企業を巻き込みテクノロジー、PBLを推進)

THEアジア世界大学ランキング2018  
総合ランキング

2018順位	2017順位	2016順位	大学名	国
1	1	1	シンガポール国立大学	シンガポール
2	3	5	清華大学	中国
3	2	=2	北京大学	中国
4	5	4	香港大学	香港
=5	6	6	香港科技大学	香港
=5	4	=2	南洋理工大学	シンガポール
7	11	13	香港中文大学	香港
8	7	7	東京大学	日本
9	9	9	ソウル大学校	韓国
10	8	10	韓国科学技術院 (KAIST)	韓国

※Times Higher Education「Asia University Rankings 2018」を参考に作成

・アジアのトップ国の動きは速い  
・海外の大学院誘致も進む  
・エリート育成を国策として徹底して投資・推進

**トップダウン→エリート**

## 未来の学び(2)アメリカの学校



- **新たな潮流の発信地** (参考:「学習する学校」「ブレンディッドラーニング」)
  - 特色ある取組み: 富裕層向け情緒教育(年間授業料400万円)、テクノロジー特化型
- **公教育は民営化等で劣化するところも** (参考:「崩壊するアメリカの公教育」「アメリカの教室」)

「THE世界大学ランキング 2019」トップ10の大学

2019の順位	2018の順位	大学名	国
1	1	オックスフォード大学	イギリス
2	2	ケンブリッジ大学	イギリス
3	3	スタンフォード大学	アメリカ
4	5	マサチューセッツ工科大学	アメリカ
5	3	カリフォルニア工科大学	アメリカ
6	6	ハーバード大学	アメリカ
7	7	プリンストン大学	アメリカ
8	12	イェール大学	アメリカ
9	8	インペリアル・カレッジ・ロンドン	イギリス
10	9	シカゴ大学	アメリカ

Times Higher Education (THE)

- 先進的取組みは参考になる(オンライン活用等)
- 初等公教育は玉石混交
- 高等教育は圧勝(世界中からトップ層を集める。日本人留学生減少)

**先進→起業家・稼ぐ**

## 未来の学び(3)ヨーロッパの学校



- 国によって大きく異なる／階級制度の名残も(複線式)
- **市民が参加し、新しく学校を創る場合もある(補助金も出る)**

- **フィンランド**
  - 幼児期を少人数でとても丁寧に、遊び中心で過ごす(→自己肯定感)
  - 平等性を意識した初等教育
- **デンマーク**
  - Teach→Facilitateへの移行
  - 個を認める意識が高い
- **オランダ**
  - **一定数の保護者の要請で学校を創ることができる。初等教育でも選択肢が多い**
- **イギリス**
  - 言葉を大切にする教育(語彙学習)

これステキ!

- 国によって大きく異なる。
- 先進性より、情緒重視の取組みが多い印象
- 少人数で丁寧な教育／個人が市民として自立する教育、を目指しているか
- 高等教育はイギリスが優位

**学習者主体⇒自立**

# 日本の学校の状況



この多様化の時代に「選択肢がない」ことが問題

費用が高い  
200万円～  
400万円/年

International  
School



外国人にしたい  
わけではない

中庸は  
ないのか？

公教育  
(特に、小学校は  
私立が少ない)



タダほど  
高いものは  
ない？

今の教育で  
大丈夫？

習い事の  
月謝が別途

第三の選択肢  
を創る  
⇒ヒロック初等部

## HILLOCK Kinder Schoolの問題意識

1. 都会における自然や人とのふれあいの希薄化  
～ふれあいが少なく、忙しい子ども時代(→将来への影響が心配)
2. 大きく変わる世界への対応は十分か？
3. 子ども自らが「育ちを勝ち取る場」(自立と教養)

選択肢の少ない日本の教育:幼稚園orインター？

～それぞれ良さはあるが、やや極端？「中庸(あいだ)」はないの？



## HILLOCK Kinder Schoolの特徴(1)

自然とのふれあい ⇒「楽しむ力(=生きる力)」の根源

がっつき遊ぶ

身体を動かす



人も自然の一部

自然を探索する

季節を感じる

仲間とともに



## HILLOCK Kinder Schoolの特徴(2)

少人数制 ⇒「自己肯定感」を全力でサポート

ラーニング・シェルパ

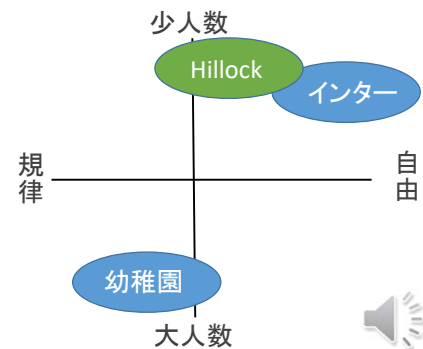
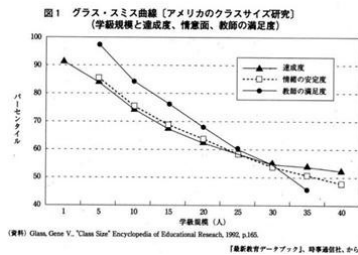
先生ではなく、  
ともに登る仲間



深い安心感

生徒15名に担任2名

世界標準は少人数制



## HILLOCK Kinder Schoolの特徴(3)

バイリンガル環境 ⇒ 多様性の理解、未来へのパスポート

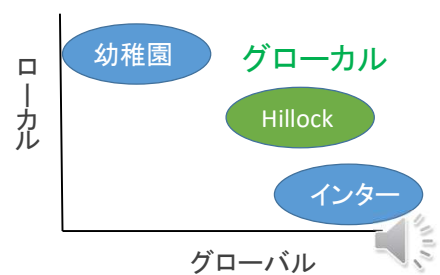
メインは英語



英語は3年間で  
2500時間以上

世界をベンチマーク

日本の良さも活かす



## HILLOCK Kinder Schoolの特徴(4)

先進の学び ⇒ 幅広く知り、一步踏み出す！

	<b>N</b> ature 自然とのふれあいを通して野性味をみがく
	<b>A</b> rt (expression) 自分の感じ方を表現をする
	<b>STEM</b> 知って、考える。そして、作ってみる Science Technology Engineering Mathematics
	<b>E</b> ntrepreneurship 起業家精神 人のためになって、自分もハッピーになる

つくる  
表現する

本物を見る

遊び  
=体験

学び

知的に楽しむ！



## HILLOCK Kinder Schoolが子どもにもってほしいこと



### Confidence

「自己肯定感」「自己効用感」

- ・自分らしさを大切に。物怖じしない
- ・自分は人の役に立てることを実感する



### Collaboration

「多様性の尊重」「チームワーク重視」

- ・違いも含め他者も正しくありうると理解
- ・力を合わせるためのユーモアと規律



### Creativity

「幅広い知識」「一歩踏み出す勇氣」

- ・世の中のワクワクをたくさん見てみる
- ・とにかくやってみる(作る・表現する)

人と比べることなく、自分らしく楽しむ (⇒ 幸せへの第一歩)



## HILLOCK Kinder Schoolの3Cへのアプローチ



### Confidence

・一人ひとり見て・感じて・声をかける。条件付きではなく存在そのもの・その子らしさを受け止めることが「自己肯定感」につながる。

(⇒大人から見た「いい子」像を求める)



### Collaboration

・協力は日本人の得意分野。ただし、今後は多様な人と力を合わせる時代。柔軟にユーモアをもって協働できるスキルを磨く。

(⇒「みんな仲良く」を強要する)



### Creativity

・「正解」を求めることなく、「知ってる」で留まることなく、手を動かしながら「とにかくやってみる」が「創造性」につながる。

(⇒「みんなと一緒に」「正解は？」を求める)

「非認知能力は幼少期に大きく育つ」と言われている



## HILLOCK Kinder Schoolの概要

対象:	3歳～6歳
定員:	15～18名(ミックス・エイジ)
開園:	月～金／9:30～14:30(5時間)
場所:	HILLOCK駒沢(世田谷区駒沢4-1-23) HILLOCK目黒(品川区西五反田4-19-18)
運営:	「NPOソダチバ・プロジェクト」とキッズアイランド共同運営

※幼稚園や保育園ではなくインター等と同様の私塾の位置付け



## HILLOCK Kinder Schoolの概要

年間予定:	一学期 4月2週～7月3週 二学期 9月1週～12月3週 三学期 1月2週～3月3週
休み:	土日祝は休み、夏休み、冬休み、春休み 調査準備日あり(クラスの質向上のための休み)
イベント:	夏季(サマースクール、サマーオープン等) 季節のイベント、キャンプ、参観、保護者会等
その他:	ランチはお弁当持参



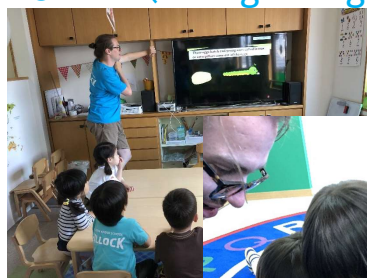
## HILLOCK Kinder Schoolの時間割

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
9:30	Work Time	Work Time	Work Time	Work Time	Work Time
10:00	Circle Time (Greeting, M&M, Letters)	Circle Time (Greeting, M&M, Letters)	Outdoor Day Trip	Circle Time (Greeting, M&M, Letters)	Circle Time (Greeting, M&M, Letters)
10:30	Outdoor Activities	Outdoor Activities		Outdoor Activities	Outdoor Activities
11:50	Lunch	Lunch		Lunch	Lunch
12:40	Literacy (Reading/Writing)	Literacy (Reading/Writing)	Theme Study	Literacy (Reading/Writing)	Literacy (Reading/Writing)
13:00	Art & Crafts	STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics)		Cultural & Social Study	Expression (Music, Instrument, Dance, Drama)
13:40	Individual Time	Individual Time	Individual Time	Individual Time	Individual Time
14:00	Circle Time (Story/Presentation)	Circle Time (Story/Presentation)	Circle Time (Story/Presentation)	Circle Time (Story/Presentation)	Circle Time (Story/Presentation)
14:15	Concentration Time	Concentration Time	Concentration Time	Concentration Time	Concentration Time
14:30	See You	See You	See You	See You	See You
14:40	Extention	Extention		Extention	Extention
17:00					



## HILLOCK 様子(横断的な学び)

### STEM (Living Things、Life cycle)



絵本や映像



観察



創る(協働)



## HILLOCK 様子(内外横断的な学び)

### Social Studies (Culture & Geography)



地域で  
実体験



Discussion

収集  
観察



創る



## HILLOCK 様子(楽しいのに深い、先進的な学び)

### STEM & Expression



専門家からの  
サポートも

演じる(Drama)



個人で  
創る



協力して  
創る

# HILLOCK Kinder Schoolのご紹介

- ラーニング・シェルパについて
- Parents Communication (保護者との連絡)
  - Class Dojoについて
- クラスの様子



## ラーニングシェルパ

4. 「ラーニング・シェルパ制」が必要な理由
- 私たちの考える教育とは本来「子どもの権利」であり、教育機関とは子どもが「自立と教養を身につける場」です。つまり、子どもが主体で、大人はそのサポートです。
  - 現制度（教科・時間割・一斉教育等）の骨格は、約 120 年前の工業化時代に国家戦略の一環として効率的に運営する観点から設計されたものです。
  - 未来志向の教育を考える場合、「子どもの主体的な育ち・学び」の視点で再構築する必要がありますと考えます。
  - そこで、HILLOCK では従来の「先生＝教える、生徒＝教わる」関係を超えて、子どもの育ちや学びをガイドする立場の大人であることを明確にするため、「ラーニング・シェルパ」というコンセプトを導入することにしました。



### (2) ガイド（観察、分析、シェア）3 ステージ

**1. 見る (Observe)** 子どもの動きを観察する

＜やること＞

- 観察する（定期的に）
- 観察対象は「事実」
- 書き留める（サポートを要求）

＜留意点＞

- 解釈・評価をしない（ひと呼吸）
- 真意は察知をカマンする

**2. 考える (Analyze)** 事実を分析する

＜分析＞

- 整理する（共通と相違）
- 推測する（何を考えているのか？なぜそうするのか？）

＜留意点＞

- 無理に結論づけない
- トラブルと捉えない

**3. 接する (Approach)** 様々な接し方をする

＜やること＞

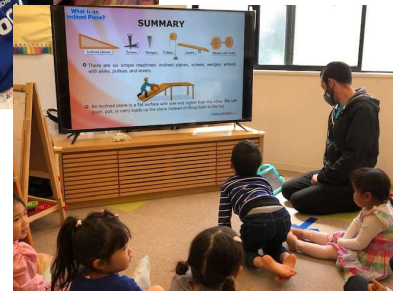
- 話す（動きを描写する、思いを伝える、質問をする）
- 接する（例を見せる、一緒に行う、サポートする、フィードバック）

＜留意点＞

- 色々な方法を試みる。
- 強さを無視せず、盾じて見守る

接し方スキル（話しかけ、ほめ方など）は次のコラムで。

# Class Dojo



## HILLOCK Kinder School 保護者の声

ヒロックに通わせてよかったと思う点は大きく3つあります。

1つは少人数ならではの活動自由度です。

毎日のようにイベント盛りだくさん。たくさんの様々な経験ができ子供もとても楽しそうです。毎週ピクニックしたり、不動前まで足を伸ばしたりできるのも少人数ならではだと思います。

2つ目は、林試の森という自然の中で毎日遊べることです。

これはプリスクールから引き続きですが、四季を感じたり、虫などを観察したり、何も無いところを走り回ったり、自然の中で工夫して遊んだり…この都会に住んでる子供にとってとても大事なことだと思います。

3つ目は音楽や映像を多く取り入れているところです。

特に娘は音楽が好きなので、自分たちで楽器作ったり、それを使って演奏したり、ギターを目の前で弾いてくれて一緒に歌ったり…

英語も自然に覚え、家でもたくさん歌を歌って楽しそうです。

まだ2ヶ月しかたっていませんが、期待以上に様々な活動を考えてくださっていてとても満足しています。



## HILLOCK Kinder School 保護者の声

娘は、

以前通っていたスクールで登園拒否になりとても心配していましたが、

ヒロックバイリンガルキンダースクールの、

「東京で一番楽しいスクール」を目指すというコンセプトに魅力を感じ、通わせることにしました。

通うようになってからは毎日スクール楽しい！と言ってくれる様になり、英語力も日に日に上達しています。

少人数制でのびのび、先生方とのコミュニケーションも密にでき、先生方の温かさが伝わります。

ヒロックバイリンガルキンダースクールに入る事ができて良かったです。



## HILLOCK Kinder School保護者の声

まだ2ヶ月ですが、子どもは楽しく親は安心してヒロックに通えて良かった！と思っています。

我が家は、ヒロックに期待していたのは大きくわけて英語力と体力の2つです。

キッズアイランドでは週2で通っていましたがヒロックは週5になり、英語の吸収力には驚きます。毎日のインプットは豊富で、知っている単語を並べ簡単な文章を作って話しかけることもできるようになり、英語の質問に対し答えられるのは驚きました。

(家では兄弟でふざけあい、Today is sunny and hot today! No---! It's rainy!と言ったり、Do you like icecream on your head?と食べ物を変えたり、身体の部位を変えたりして笑いあっています。)

また、幼児期にしっかり外遊びをして欲しいと思っていましたので、林試の森公園で遊べることも魅力のひとつでした。

いまは、スクールのあと林試の森公園で遊ぶことが日課になり、子どもたち同士、日本語と英語を混ぜながらまるで兄弟のように同じ時間を楽しく過ごしています。

ヒロックは少人数制なので先生の子供たちのフォローが手厚く、先生方への相談も日本語で出来るので(大事！)とても安心しています。



## HILLOCK Kinder School募集要項

### <費用(税別)>

入会金: 15万円~NPO法人ソダチバへの寄付扱い(返金なし)

(キッズアイランド生は当初入会金との差額のみ)

授業料: 120万円(年間)~年一括、または月払い

教材・施設費は半年毎6万円

その他: サマースクール、キャンプなどは別途費用が発生

延長は月火木金の17時まで、1400円/時

お弁当、スクールバスなし、制服無し





## HILLOCK Kinder School 募集要項

### <今年度の募集>

- 人数: 5名程度(年少・年中のみ)～年長は帰国生補充
- 受付開始: 随時
- 選考: クラス体験と面接(キッズアイランド生は面接のみ)
- ①保護者が方針を理解、②安全面で問題がない、③特別な対応が不要
- その他: 入学時点での英語力は問わない
- 母国語については家庭でカバーする(絵本を読む等)



## HILLOCK Bilingual Kinder School

都心にいながら  
バイリンガル環境で人と自然にたっぷりふれあい、  
先進の学びにふれる

